

《担当者名》 近藤里美 榊原健一

【概要】

音楽を療法的に用いるために必要な正しい呼吸法や発声法を理解し、「歌う」ことの基本的知識と合唱の演奏技能を習得する科目である。

【学修目標】

合唱行為のもつ身体的側面や社会的側面を理解し、表現活動としての合唱の演奏技能を身につける。

1. 健康な音声を維持するための正しい姿勢、呼吸法、発声法を理解し実施できる。
2. 音楽表現を豊かにするハーモニーの役割を理解し、創造することができる。
3. 他者と協働した表現活動としての合唱を実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法の説明	近藤里美
2) 5	発声の基礎	・発声の生理と物理の基礎 ・声の高さと大きさの調節 ・母音、子音の音声学的基礎 ・声区の調整 ・様々な声質の発声の実践	榊原健一
6) 11	発声練習とウォーミングアップ 音程・和音・調性・リズムの復習	・基本的な楽譜の読み方の習得 ・母音・子音・ハミングの練習	近藤里美
12) 17	発声練習とウォーミングアップ 合唱曲	・ポリフォニーとホモフォニーの理解 ・パート練習と全体練習	近藤里美
18) 23	発声練習とウォーミングアップ 合唱曲	・ハーモニーの理解 ・パート練習と全体練習	近藤里美
24) 29	発声練習とウォーミングアップ 合唱曲	単旋律に音を重ねる練習と即興的なハーモニーの体験 ・パート練習と全体練習	近藤里美
30	まとめ	・合唱に必要な知識と技能の要点整理	近藤里美

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

平常点50%、授業内に実施する課題達成確認テスト50%

【教科書】

特に指定しない。必要な資料・楽譜は授業で配布する。

【参考書】

ヨハン・スンドベリ 「歌声の科学」 東京大学出版局 2007年

【備考】

- ・学習形態は講義、グループ演習、全体演習を適宜配分する。

【学修の準備】

- ・あらかじめ配布された資料・楽譜をもとに、十分な事前学修・練習を行うこと。
- ・毎回の授業後には、各自の課題点を整理し、十分に復習すること。

・事前学修・事後学修に各々80分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

近藤里美（音楽療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関および介護保険施設での実務経験を活かし、音楽療法に必要な合唱の技能演習を行う。